II－79　女性の視点から見た漁港漁村整備（苫前漁港を事例として）

(財)漁港漁村建設技術研究所　正　員　須藤由美子
(財)漁港漁村建設技術研究所　正　員　児玉いずみ
北海道開発局農業水産部水産課　正　員　長野　章

1．はじめに

我が国の海岸線にはおよそ 3,000港の漁港が分布し、その背後には6,000とも7,000ともいわれる漁村が存在し、そこでは日夜漁業活動が行われている。その活動内容は厳しい海上での漁獲作業が主となり、一般に男性の仕事というイメージが強い。統計上の就業者数をみると（表－1）、男性が全体の８割強を占めていることがわかる。しかし、これは漁業者の定義が次のようになっていることに起因すると考えられる。その漁業者の定義は『漁業世帯の世帯員のうち、満15歳以上で ～中略～ 海上作業に年間30日以上従事した者』である。このような定義のため、陸上で働いている女性はこの漁業就業者数に含まれないていない。実際に漁港漁村を訪れると多数の女性が漁港で働いている姿を目にする。水産加工場ではそのほとんどが女性である。このような状況から、海上作業は男性、陸上作業は女性という仮説が成り立つ。そのため、漁港の整備、特に陸上部分の計画を行う場合には、女性の視点にたった施設の配置等を検討する必要がある。そこで本調査は、漁業に従事している女性に改めて焦点をあて、女性と漁業との関わりを明らかにすることを目的とする。

表－1　漁業従事者数

	計	男		女	
1973年	510,727	420,509	82.3%	90,218	17.7%
1978年	478,148	398,052	83.2%	80,096	16.8%
1983年	446,536	368,320	82.4%	78,216	17.5%
1988年	392,392	324,337	82.7%	68,055	17.3%
1993年	324,886	267,863	82.4%	57,023	17.6%

2．調査方法

2－1　調査対象地区の選定

女性と漁業のかかわりは実際の作業内容、生活時間等から把握することとした。そのためのモデル地区として北海道内の５地区を選定した。選定に当たっては、北海道の代表的な漁業であり、女性がかかわることの多い漁業種類であること、種類が多種類にわたること等を考慮した。

表－2　調査対象地区

所在地	漁港名	主要漁業種類
積丹郡積丹町	余別漁港	採貝業（ウニ）
三石郡三石町	三石漁港	採草業（コンブ）
苫前郡苫前町	苫前漁港	ホタテ養殖業
天塩郡遠別町	遠別漁港	ホタテ養殖業
留志郡熊石町	熊石漁港	スケソウ延縄漁

2－2　調査方法

主な調査内容は、①現地踏査調査、②アンケート調査、③女性聞き取り調査、④女性懇談会である。各調査内容については表－３のとおりである。

表－３　調査内容

現地踏査調査	安全性、快適性、衛生面等の項目で構成したチェックリストをもとに現地を踏査調査した。リストは見落としがちな細かい点までチェックできるようにするためである。
アンケート調査	漁業に対する意向、漁港整備への要望等を把握するためアンケート調査を実施した。男女比較ができるように、女性だけでなく男性も対象とした。
女性聞き取り調査	女性の生活時間や具体的な作業内容を把握するため、各地区数名を対象に聞き取り調査を実施した。内容が細かいため、調査は個別に行った。
女性懇談会	婦人部の活動、その他の問題点、意向等を把握するため、住民懇談会を開催した。会は女性が発言しやすいように女性だけを対象とし、人数も５～10人程度とした。

Women's Perspectives on Fishing Ports Improvement (Case Study for Tomamae Fishing Port) by Yumiko SUDO, Izumi KODAMA, Akira NAGANO

3．調査結果（事例：苫前漁港）

本報告は５地区のモデル調査の中から苫前地区での調査結果を中心にまとめる。

3－1　苫前地区概況

苫前漁港は、札幌と稚内のほぼ中央に位置する日本海に面した漁港である。平成５年時点での人口は全町で 4,928人、漁港背後地区では 300人となっている。

町の基幹産業は農業を中心とした第１次産業であるが、その就業者数の推移をみると、全体的に若干減少しているのに対し、水産業だけは倍増していることがわかる。

地区の主要漁業種類は、貝類養殖業（ホタテ）であり、ホタテの陸揚量（1,542ﾄﾝ）で全陸揚量（2,994ﾄﾝ）の半数以上を占めている（平成３年）。その他には、えび桁網漁や刺網漁（カレイ）、タコ漁などがある。

表－４　産業別就業者数の推移

	昭和50年	昭和60年	平成２年
総　数	3,347	2,960	2,906
第１次産業	1,332	1,235	1,151
農　業	1,017	800	741
林　業	181	149	103
水産業	134	286	307
第２次産業	937	711	725
第３次産業	1,078	1,014	1,030

単位：人、資料：苫前町国勢調査

3－2　女性漁業就業者数

年齢別、男女別の漁業就業者を経年で表したものが表－５である。就業者は全体的に漸減傾向にあるが、昭和63年以降は40歳未満の就業者数が若干増加している。これは、漁協がホタテ養殖業に本格的に着手し始めた時期と重なり、漁業の安定化が図られたことが青壮年層の漁業離れをややくい止める結果となったと言える。

一方、女性就業者をみると、このデータではいずれの年も皆無となっている。これは１．はじめにで紹介したとおり、漁業就業者の定義に陸上作業の人数がカウントされないためであり、実際には苫前地区ではホタテ養殖業においても多くの女性が従事していることが知られている。聞き取りなどで把握した数値より女性の就業者数を推計すると次のとおりである。

表－５　年齢別、男女別漁業就業者の推移

単位：人（%）

	昭和48年		昭和53年		昭和58年		昭和63年		平成５年	
合　計	１５５		１３２		１１４		１０６		１０６	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
小　計	155	0	132	0	114	0	106	0	106	0
	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)
15～19歳	4	0	2	0	0	0	0	0	2	0
	(2.6)	(0.0)	(1.5)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(1.9)	(0.0)
20～29歳	9	0	11	0	6	0	8	0	5	0
	(5.8)	(0.0)	(8.3)	(0.0)	(5.3)	(0.0)	(7.5)	(0.0)	(4.7)	(0.0)
30～39歳	29	0	16	0	7	0	14	0	21	0
	(18.7)	(0.0)	(12.1)	(0.0)	(6.1)	(0.0)	(13.2)	(0.0)	(19.8)	(0.0)
40～49歳	51	0	45	0	21	0	14	0	8	0
	(32.9)	(0.0)	(34.1)	(0.0)	(18.4)	(0.0)	(13.2)	(0.0)	(7.5)	(0.0)
50～59歳	38	0	37	0	42	0	33	0	23	0
	(24.5)	(0.0)	(28.0)	(0.0)	(36.8)	(0.0)	(31.1)	(0.0)	(21.7)	(0.0)
60歳以上	24	0	21	0	38	0	37	0	47	0
	(15.5)	(0.0)	(15.9)	(0.0)	(33.3)	(0.0)	(34.9)	(0.0)	(44.3)	(0.0)

資料－漁業センサス

ホタテ養殖業では周年とおして女性が作業をしているが、最も多くの女性が従事している稚貝の分散作業時期には、10ケ統の経営体においてそれぞれ８人～12人の女性が働いているため、平均して10人と考えると、100人の女性が分散時期に漁業に携わっていることになる。

また、ホタテ養殖業の他に、刺網漁業の網外しやコンブ干しなどにも女性が従事している。少なくとも１経営体に１人以上の女性（事業主の配偶者）が従事していると考えると、刺網漁業経営体数が72ケ統であることから、72人は刺網等の漁業に従事していると考えられる。（この場合、刺網漁業とコンブ漁業は兼業で行われる可能性が大きく、数の多い刺網漁業経営体数の数値を採用した。）

刺網漁業とホタテ養殖業では兼業しないため、単純に両者を加算して、少なくとも 172人の女性が苫前地区で漁業に従事していることになる。この数値は男性の就業者数よりもはるかに多くなり、苫前地区の漁業にとって女性の労働力は欠くことのできない重要な役割をもっていることがわかる。

３－３　作業内容および女性の役割

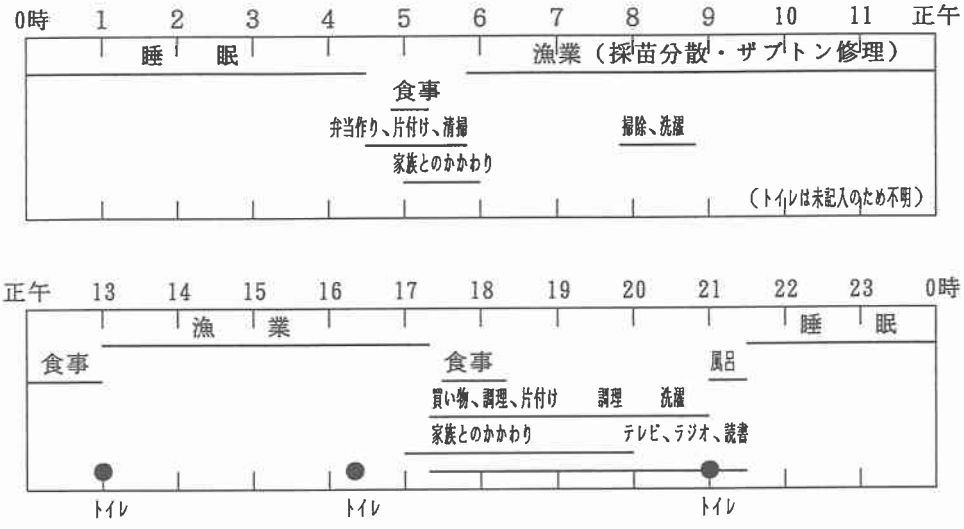
ホタテ養殖業における女性の作業内容は以下のとおりである。

稚貝出荷（4/20～5/20）・成貝出荷（６月）	仮分散（８月）・本分散（９月～10月）
3:00　起床（夫も一緒に起床） 弁当づくり（沖に出る人の昼食分） ※悪天候等で明らかに出港がないときは作らないが、行けるかどうかわからないときでもとりあえず作る。 3:30　夫出港 朝食をとる。 家事をする（洗濯以外）。 5:00　岸壁に立地しているホタテ養殖作業施設に行き、準備をする。 ※準備：漁具を出す、水槽に水を張る、網を水に浸す等 7:00　夫帰港。雇っているパートの女性が近隣地区より出勤してくる。	
7:00～12:00　稚貝をベルトコンベアーで船から直接施設の中に上げる。女性がザブトンから稚貝を出す。それを男性が機械で選別する。輸送トラックに積み込む、業者に渡す。	8:00～12:00　“ふるい”にかけてゴミや害虫を取り除きカゴに稚貝を入れる。これをザブトンに移す。
12:00～13:00　“番屋”で食事（弁当持参）をとる。	
13:00～16:00　番屋で採苗器を作る（男女とも）。	13:00～16:00　男性は沖へ行き、ザブトンを海に入れる。女性は番屋で丸カゴの修繕をする。
16:00～9:00～10:00　作業終了、帰宅 夕食準備、夕食、風呂、洗濯、自由時間等 就寝	

注）採 苗 器：ホタテの稚貝を採取するための漁具。網状になっており、海に沈めておくと稚貝が着く。
ザブトン：約５厘目のあみ状の袋の中に仕切りがあり、10部屋程度に分かれている漁具
丸 カ ゴ：ザブトンよりも網目が大きく、より成長した稚貝を入れるための漁具

※これらの作業は岸壁に仮設されているホタテ養殖作業施設を中心として、カゴ洗浄施設、個人の作業施設（番屋）で行われている。

また、一日の標準的な生活時間について把握するため、数人の女性に生活時間調査表の記入をお願いした。図－１はその内の１人の結果をまとめたものである。



図－１　１日の生活時間

これら生活時間と聞き取りをした結果から、以下のようなことがいえる。

・睡眠時間は６～７時間程度とっているが、その時間帯は都市のサラリーマン家庭に比べると早い。
・出港の可否の判断がつかないときでも、朝の多忙な時間帯に乗組員の弁当を用意しなくてはならない。
・漁に出る夫や就学中の子供等生活時間の異なる家族の存在如何に　より、世話をする女性の負担も異なる。
・漁業活動で衣服が汚れるため洗濯物は大量である。
・漁業作業内容は天候やホタテの量等により日々異なる。
・移動手段は主に自家用車（軽トラック）である。車は近隣地区からくるパートの人にとっては唯一の交通手段といえるが、自宅と漁港が近くても車を利用する人が多い。
・朝および夕方の家事時間帯は複数の作業を掛け持ちで行っている。

３－４　女性意向調査

地区住民の漁港漁村に対する意向を把握するため、アンケート調査を実施した。漁港漁村のイメージや各漁港施設の状況について、50の項目それぞれについて５段階評価してもらった。その結果が表－７である。

有効回答数	117部
男　性	70部
女　性	42部

男性と女性とでは回答にあまり差がみられない。特に、漁港の広さや安全性など基本的な点については男女とも同じ意向である。また、漁港内への部外者の立ち入りや集落との分離の必要性は感じていないようである。苫前地区では、部外者によると思われる漁具の盗難や私的トイレの無断使用等過去に迷惑を被っていることがあるにもかかわらず、閉鎖的な考え方はない。ただ、部外者の残すゴミについては問題になっている。

表－7　漁港漁村に対する意向

	男　　性	%	女　　性	%
	そう思う・ややそう思う			
1位	観光客・釣り客の出すゴミが多い	92.9	海域の汚染を防止する対策が必要	73.8
2位	漁港内にトイレがほしい	92.9	災害時の緊急連絡ｼｽﾃﾑを充実してほしい	66.7
3位	災害時の緊急連絡ｼｽﾃﾑを充実してほしい	92.9	漁港内に駐車場が少ない	64.3
4位	漁港内に暖をとれるような施設がほしい	91.4	観光客・釣り客の出すゴミが多い	64.3
5位	除雪作業等降雪時の対策を強化してほしい	91.4	漁獲物の直販施設があると良い	64.3
	ややそうは思わない・そうは思わない			
1位	漁港は広すぎると思う	88.6	漁港は広すぎると思う	50.0
2位	漁港は仕事場なので部外者が入るのは困る	82.9	漁港は仕事場なので部外者が入るのは困る	45.2
3位	漁港は危険なので集落とは分離するべき	82.9	漁港は危険なので集落とは分離するべき	45.2
4位	岸壁から海に落ちそうになることがある	81.4	漁港内にシャワー施設がほしい	42.9
5位	漁港内に泳ぐ場所があればいいと思う	70.0	漁港内に泳ぐ場所があればいいと思う	42.9

男女で意見の異なる点もいくつかある。例えば海域の汚染については女性の方が敏感であり、漁港内で暖をとれる施設や降雪時の対策は男性の方が強い関心を示している。また調査前の予想では、トイレやシャワー施設等衛生面の整備要望は女性の方が強いと思われたが、結果は男性が９割以上の要望であるのに対して、女性は５割程度と意外な結果も得られた。

また、漁業に携わっていて困る点あるいはよかった点についてそれぞれ尋ねたところ、以下のような結果になった。

表－８　漁業に携わっていて困った点・よかった点

	項　　目	女　性		男　性		全　体	
		%	順位	%	順位	%	順位
	若い人（後継者）が少ない	38.1	1	41.4	3	39.3	2
	魚の臭いが体にしみつく	23.8	2	1.4		10.3	
	収入が不安定である	23.8	2	62.9	1	47.9	1
	人間関係がむずかしい	21.4	4	11.4		14.5	
	寒い・冷える	21.4	4	28.9	5	26.5	5
	労働が厳しい	16.7		42.9	2	32.5	3
	時間制限がない・不規則	19.0		35.7	4	28.2	4
	おいしい魚が手に入る	64.3	1	48.6	1	53.8	1
	住まいと職場(漁港)が近く便利である	26.2	2	18.6		21.4	5
	自然に囲まれて仕事ができる	23.8	3	45.7	2	35.9	2
	ある程度、時間が自由になる	23.8	3	5.7		12.0	
	健康的である	21.4	5	11.4		14.5	
	充実感がある、生きがいを感じられる	2.4		27.1	5	17.1	
	海が好きなのでそこで働けることがうれしい	7.1		45.7	2	29.9	4
	夫婦・家族一緒に仕事ができる	19.0		40.0	4	30.8	3

困った点について、男女とも「収入が不安定である」や「若い人（後継者）が少ない」「寒い・冷える」は割合が高い。男女で異なる点は、「魚の匂いが体にしみつく」「人間関係が難しい」は女性が割合が高く、「労働が厳しい」「時間制限がない・不規則」は男性の方が高い結果となっている。

またよかった点については、「おいしい魚が手に入る」が男女とも高い割合であり、女性の場合はその他「住まいと職場（漁港）が近く便利である」や「自然に囲まれて仕事ができる」といった漁業ならではの点に魅力を感じていると言える。しかし男性は「住まいと職場が近い‥‥」はあまり重要視していない。「ある程度時間が自由になる」という点も男女では差があり、女性の方が時間は自由になるようである。

これらアンケート調査をもとに、女性懇談会を開催した。その主な意見を以下に示す。

ホタテ養殖作業施設について	現在撤去可能なように仮設となっている施設の常設を認めてほしい。組立・取り壊しが大変であるうえ資材が傷む。
直販施設について	苫前の名産を加工し、直販することは良いことと思うが、店番等の当番制で時間を拘束されることは厳しい。
既往の観光開発構想について	外来者が港に入って来て物がなくなることがある。港に観光客が入ってくることは、漁師にとってあまり喜ばしいことではない。港内にはわかりづらいルールもある。
女性の仕事の役割について	大型船は企業組織になっていて、女性の作業は必要としていない。ホタテ養殖や刺網では女性は陸上作業は何でも行う。そのため家では大威張りであるが寝るまで忙しい。
公衆トイレについて	現在個人で番屋に仮設トイレを設置している。公衆トイレを整備するなら、釣り客の利用（マナー）が問題である。清掃面まで考慮したものでないとだめ。

注）既往の観光開発構想：漁港に隣接した用地で、海水浴場やキャンプ場宿泊施設等の整備構想がある。

この他に、当地区の漁協婦人部では現在部長が不在になっているということである。その理由は、ホタテ養殖作業が周年続くため女性はいつも忙しく、部長のなり手がいないとのことであった。また、前述のアンケート結果では漁獲物直販施設について女性は６割以上が賛成しているが、現実に店番等で時間が拘束されるのは困るという意見が出る等、女性の忙しさが伺われた。また当地区では、個人的に仮設トイレを設置しており、そのためアンケート結果で要望が少なかったと思われる。さらに公衆トイレに対する衛生的なイメージの悪さや部外者の利用に対する懸念等もあげられていた。

４．まとめ

以上の結果から、女性と漁業活動のかかわり方は以下のとおりといえる。

①ホタテ養殖作業は、害虫駆除や網の入れ替えなど海上作業だけでなく陸上作業でも多大な手間がかかり、そのため女性の労働力は不可欠となっている。

②男性は海上作業、女性は陸上作業という大雑把な分業が成り立っている。

③女性は直接の漁業活動だけでなく、それを支える活動（弁当造り、網修繕等）にも多く携わっている。そのため漁業に携わる時間や家事に携わる時間の把握が困難である。

④漁業種類によって、そのかかわり方は異なっている。

⑤女性は１日の半分は漁港で過ごしている。

⑥女性は漁業の合間に家事をこなしている。そのため、漁港と自宅の往復回数が多い。

⑦生活時間帯が異なるため、漁業者以外の住民との交流が図りづらい。

⑧浜清掃等管理面での女性の負担が大きい。

５．おわりに

浮桟橋の設置やベルトコンベアーによる陸揚げ等、漁港の整備が進むことによりその就労環境は飛躍的に改善されている。さらに機械操作が簡単になったことにより女性の進出も可能となり、また近年の若者の漁業離れも加わり、女性の労働力は今後ますます重要になってくると考えられる。そのとき漁港整備、特に陸上での施設整備を考える場合、その重要な労働力である女性の視点にたった整備は非常に重要になる。そのためにも、女性と漁業のかかわりをさらに明らかにしていく必要がある。